

2019 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義実習
科 目 名	音声学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1学年		学期及び曜時限	前期 金曜1時限	教室名	702
担 当 教 員	氏平 明	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>自分が発した言語音の内省(調音法, 調音の場所, 声帯振動の場所, 唇の動き, 舌の盛り上がりの位置等)を自分の発音を対象化してとらえていく訓練の積み重ねです。それを通して知識も吸収していきます。そして国際音声記号で自他の発話を転写し, 記述するところに発展します。自分のしていることと, 観察と考えることが連携してする訓練で, その結果, 自己改革となる授業です。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>定期試験60% 実技試験20% 口頭試問20%</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>斎藤純男著『日本語音声学入門』(改訂版)三省堂, オリジナルハンドアウト, 米国音響学会編喉頭検査に関するビデオ, *(参考図書)窪菌晴夫著『日本語の音声』岩波書店, 参考文献:氏平明(2010)「言語聴覚士教育における言語学と音声学」福岡教育大学付属特別支援教育センター研究紀要2号, 氏平明(2011)「言語聴覚士教育と臨床のための音声学 I」福岡教育大学付属特熱支援教育センター研究紀要3号, 氏平明(2014)「言語聴覚士教育と臨床のための音声学 II」福岡教育大学特別</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>予習は不可能なので, 毎時間学んだことをしっかり復習していく。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>まず自分の発音の内省, 内省, 内省, そして確認。まず自分探しの徹底です。そして他人の発音の観察, 転写, 記述です。ただし自分が吃音者だと思っている人は, 申し出てください。方法が変わります。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声の生成のメカニズムをモデルを使って理解できるようになる。	ハンドアウト(参考文献の氏平(2011))		予習は不可能, 復習で口の中の動きと調音器官の名前を覚える
		各コマにおける授業予定	音声の生成と知性のシステム			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声生成のメカニズムの記述方法を身に付けることができるようになる。	IPAのチャート(教科書内)		復習:舌先の動きで調音器官を確認する
		各コマにおける授業予定	調音音声学の考え方			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	喉頭機能の音源生成を理解できるようになる。	米国音響学会の編集のDVD		復習:有声無声の相違を自分の感覚でとらえる練習
		各コマにおける授業予定	呼吸と発声, 声帯振動の動きをビデオで確認する。有声音と無声音			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	調音器官の役割を理解できるようになる	教科書		復習:調音の移動を舌で, 口蓋垂で唇で, 声帯で確認する
		各コマにおける授業予定	単音の産出と調音			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	音声の分類とその背景を理解できるようになる	ハンドアウト(参考文献の氏平(2014))		復習:音声産出の調音と単音の結合の調音
		各コマにおける授業予定	共鳴性と阻害性, 子音性と母音性			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	破裂音の生成を理解し自分でその発音のコントロールができる	教科書	復習:破裂音の調音の内省と転写
		各コマにおける授業予定	子音の転写と調音音声学的記述(破裂音)		
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	鼻音, ふるえ音, 弾き音の生成を理解し, 自分でその発音のコントロールができる。	教科書	復習:鼻音, ふるえ音, 弾き音の調音の内省と転写
		各コマにおける授業予定	子音の転写と調音音声学的記述(鼻音, ふるえ音, 弾き音)		
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	摩擦音の生成を理解し, 自分でその発音のコントロールができるようになる。	教科書	復習:摩擦音の調音の内省と転写
		各コマにおける授業予定	子音の転写と調音音声学的記述(摩擦音)		
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	側面音と接近音の生成を理解し, 自分でその発音をコントロールできるようになる。	教科書	復習:側面音, 接近音の調音の内省と転写
		各コマにおける授業予定	子音の転写と調音音声学的記述(側面音, 接近音)		
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	母音の生成とその体系を理解し, 母音を発声してその音色をコントロールできるようになる。	教科書	復習:母音の内省と転写
		各コマにおける授業予定	母音の転写と調音音声学的記述		
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	副次調音を理解し, その発声ができるようになる	教科書	復習:特殊な発音と副次調音の内省と転写
		各コマにおける授業予定	特殊な発音と副次調音		
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	無標と有標を理解し, 発音の難易度を内省で理解できるようになる。	教科書等	復習:自分の日本語発音の内省と転写
		各コマにおける授業予定	日本語の音声1(無標の音声)		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	音声の移行, 同化や経済性を理解し, なぜ有標の発音が生じるかを理解できるようになる。	教科書等	復習:自分の日本語発音の内省と転写
		各コマにおける授業予定	日本語の音声2(有標の音声)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	単音, 分節素, 音素の違いを理解できるようになる。	ハンドアウト, 参考文献の氏平(2014)	復習:音声産出の背景の内省試み
		各コマにおける授業予定	音声単位と音韻単位, 音声学と音韻論		
第15回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	他者の発話をIPAで転写できるようになる。	ハンドアウトと実習	総復習してIPAを使えるようにする
		各コマにおける授業予定	他者の発話のIPAによる転写演習		